

○プログラム（コース）名：アレルギー専門医取得コース

○プログラムの概要・特色：

- ①アレルギー性疾患全体への理解，診断，治療および検査法を習得する．さらに，内科医としての一般的な診療もあわせて経験していく．
- 気管支喘息の病態を理解し，診断をする．重症度を判断し，治療計画を立てる．患者様へセルフマネジメントの方法を説明する．環境整備について説明できる．
 - 気管支喘息の急性発作，アナフィラキシー（ショックを含む）の対応を行う．
 - アレルギー性疾患の原因抗原（アレルゲン）の同定を行う．
 - 減感作療法の適応，閾値，初期治療濃度の決定，減感作療法を理解する．
 - 気道可逆性試験，気道過敏性試験，気管支負荷試験について理解し，経験する．
 - その他のアレルギー性疾患（アレルギー性鼻炎，アトピー性皮膚炎など）への対応を理解する．
 - 一般内科を理解し，指導医とともに診療に当たる．
- ②アレルギー喘息内科は，内科学第三講座に所属している．他の第三内科所属の講座（糖尿病・代謝・内分泌内科，神経内科，リウマチ・膠原病内科）と合同の抄読会，クリニカルカンファランスを行っている．また，希望者は上記各科個別のカンファランス，抄読会などにも参加することが可能である．

○年度ごとの研修内容

後期研修医			臨床助手または臨床研究医		
1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目
卒後3年目	卒後4年目	卒後5年目	卒後6年目	卒後7年目	卒後8年目
アレルギー喘息内科研修	関連病院にて内科研修	アレルギー喘息内科研修	アレルギー喘息内科研修または関連病院研修		
↑ アレルギー学会入会	↑ 内科学会認定 内科医試験受験				↑ アレルギー学会 専門医受験

* 1年目，3年目の研修期間中に総合診療科にての研修が義務付けられている．

* 希望者は皮膚科，耳鼻科にての研修も可能．

* アレルギー学会専門医受験資格は以下のとおり

認定時に引き続き5年以上日本アレルギー学会の会員であること．内科の専門医（認定医）資格の認定を受けていること．基盤学会認定資格取得後、内科は3年以上、計6年以上の臨床研修歴を要する．この研修歴6年の内、通算3年以上は日本アレルギー学会認定教育施設において、日本アレルギー学会指導医または専門医のもとでの、所定のカリキュラムに従ったアレルギー学の臨床研修を必須とする．最近の5年間に別表1に示すアレルギー学の業績が50単位以上あること． など．

○週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM		教授回診			助教授回診	
PM		16:00～ 輪読会			気道過敏性検査	
17:00～		抄読会 クリニカルカンファランス		*		

アレルギー喘息内科外来は毎日午前．午後ともに診察医が診療に当たっている．

空欄は、入院患者等の状況に応じて、病棟、外来担当を適宜決定していく。

皮膚テスト、気道可逆性試験などは外来診療に並行して行っているため、積極的に見学を行うこと。

*院内アレルギー研究会（皮膚科、耳鼻科、当科との合同勉強会）：木曜日 17時から（不定期）

○取得できる資格：日本内科学会認定内科医、日本アレルギー学会専門医

○プログラム終了の評価、認定方法

上記に記した資格試験合格により認定医、専門医を取得することによりプログラム終了と評価する。

○処遇・待遇

- ・後期研修医として3年間は月額20万が支給される。当直を行った場合は9800円/回が支給される。後期研修医終了後の給与は病院の規定に従う。
- ・健康保険、厚生年金、労災保険に加入できる。
- ・週2単位（1単位は半日）の院外勤務が可能であり、これに対する給与は勤務先から支給される。
- ・後期研修医期間中の関連病院での内科研修時は、関連病院から給与が支給される。

○その他

アレルギー（喘息）内科は、主に気管支喘息、アナフィラキシー、食物アレルギー、花粉症、蕁麻疹などのアレルギー性疾患を扱う診療科である。臨床面では上記疾患を中心とした診断、治療、検査などを行っている。喘息重篤例やアナフィラキシーショックでは救命救急部や麻酔科ICU担当医と、花粉症や上気道症状合併喘息患者では耳鼻科医と、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎合併喘息等では皮膚科医と連携を取りながら診療に当たっている。

喘息の気道炎症の評価としての呼気一酸化窒素測定や、呼吸生理学的検査なども積極的に行っている。

また研究面では、ジャンガリアン・ロボロフスキーハムスターやフェレットなどの特異的IgE抗体測定法の確立やアレルゲン解析などを試みている。